

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ミョウガの環境制御技術の普及推進 ～JA四万十ミョウガ部会総会の開催～



総会の様子

10月12日、JA四万十ミョウガ部会の総会が興津支所で開催され、生産者31名が参加しました。

総会では、営農指導課から養液栽培が増加していることや変形花蕾の要因と対策、ナミハダニ等のIPM防除試験案の報告がありました。普及所からは、環境制御や有望系統等の増収技術の試験報告や、栽培管理チェック表の活用によるうっかりミス防止の呼びかけ、環境制御関連事業と労務管理講演会を紹介しました。内容が盛りだくさんでしたが、生産者は熱心に聴いていました。

今後もJA四万十と連携して、生産者の所得向上に向けて支援していきます。

ショウガの栽培技術向上及び生産振興 ～生姜部会圃場共進会の開催～



ほ場審査の様子

10月13日、生姜部会圃場共進会が開催され、生姜部会役員、JA及び普及所の職員12名が、生産者13戸のほ場で審査を行いました。

審査したほ場は、わずかに白星病やハスモンヨトウの食害、塊茎の露出等が見受けられましたが、いずれも病害虫防除や除草作業等が行き届いており優良なほ場ばかりでした。また、いずれも株張りや作柄も優れており、高収量が見込まれると思われました。審査の結果、4ほ場が優秀なほ場として表彰されることになりました。

今後、さらにJA四万十と連携し、生産者の栽培技術向上に向けて支援していきます。

飼料用米の収量向上・生産拡大に向けて ～JA四万十飼料用米説明会の開催～



病害、除草対策を指導

10月11、12日、四万十町の興津地区と窪川、大野見地区の飼料用米生産者を対象に飼料用米説明会を開催し、30名が参加しました。

普及所からは、本年度の生育状況と、近年問題となっているごま葉枯病や除草対策技術の指導や、収量向上に向けた専用品種の品種比較試験結果を情報提供しました。

生産者からは、「飼料用米はなかなか思うような収量がとれないが、今回の指導を受けて除草対策を実践してみる。」などの声が聞かれました。

今後も、飼料用米の収量向上や生産拡大に向けて関係機関と連携し、支援していきます。

土地利用型農業へのIoTの活用に向けて ～高知県IoT推進ラボ研究会の開催～



IT企業と複合経営拠点
の意見交換

10月18日、高知県IoT推進ラボ研究会が担い手育成センターで開催され、IT企業（10社）や複合経営拠点（営農支援センター四万十、四万十農産）、支援機関などの44名が参加しました。

普及所及び複合経営拠点で、土地利用型農業におけるIoTの現状や課題、実現したいことについて説明し、それらに関する現地ほ場の視察、意見交換を行いました。

意見交換では、複合経営拠点からは地図情報システムの整備がまずもって必要であることや、企業側からはIoT機器を導入する場合の予算額や費用対効果に対する質問などがありました。

今後は、IoT推進室や町役場、企業等と連携し、土地利用型農業へのIoTの導入に向けた取組を支援していきます。

農家住宅整備の具体策に向けて ～仁井田地区就農・定住ワークショップの開催～



地図上で空き家を確認

10月11日、影野町民会館で農家住宅の整備に向けたワークショップが開催され、住民、関係機関等合わせて22名が参加しました。

普及所はファシリテーター（委託業者）とで、空き家情報の共有や、新規就農者（移住者）の受入体制、利用しやすい農家住宅の機能、設備などについての話し合いを行いました。

農業者等の住民からは「四万十農産など雇用の場がある」「女性が住みたいと思うことが大切」「女性も働く場が必要」など活発な意見が出されました。

今後も関係機関と連携し、新規就農者の確保に向けた条件整備の取組を支援していきます。

農業労働力確保対策に向けて ～地域内での農業労働力の補完に向けた協議会の開催～



協議の様子

10月16日、普及所会議室で、地域内での労働力補完に向けた協議会を開催し、町役場やJA四万十、町商工会、県建設業協会高幡支部、県中小企業団体中央会など16名が参加しました。

司会は高知大学の岡村地域コーディネーターが行い、普及所は県内の農業労働力不足の現状、JA四万十はショウガ収穫作業の援農支援の現状、援農者の確保状況について報告しました。

建設業協会からは、公共事業に依存しているため4～7月に仕事が少ないことが報告され、施設園芸の繁忙期と重なることから、今後も検討する余地が残されました。

今後も関係機関と連携し、農業労働力確保対策の具体化に向けた取組を支援していきます。